健康と光線

発行所
〒153
東京都目黒区目黒
4－6－18
サナモア光線協会
年4回発行
会費年500円
電話 東京（03）
3793－5281
3712－5322

骨粗鬆症（こつそしょうしょう）を治すには

―カルシウム・日光浴・運動は三位一体―

サナモア光線協会
サナモア中央診療所
医学博士　宇都宮　光明

高齢者の関節や骨の病気は治らない？

高齢になって患った関節や骨の病気は、年のせいだから治らなくても仕方がないと諦めていませんか。もしもそうなら、恐らく治らないでしょう。そういう人は、医者から貰った痛み止めの薬を飲んで（胃を悪くしても）、動くと痛いから極力動かずに静かにしています。この類の病気を治すのは、医師も含めて人に頼らず、自身の心構えにあることを知らないからです。

高齢者の治りにくい腰痛や関節痛の原因になる骨の変形を伴う関節疾患や、極めて些細な外力で背骨や大腿骨がつぶれ寝たきりの原因になる病的骨折に、加齢に伴って増悪する骨粗鬆症が深く関わっています。したがってこれらの病気を治したいなら、骨を丈夫にする、すなわち骨粗鬆症を治す対応策を知ることが極めて大切になります。

カルシウムも大事だけれど

骨粗鬆症はカルシウムをとれば防げるほど単純なものではありません。実際、当診療所にも便秘になるほどカルシウムをとっている、という方が来られますが（カルシウムの便中に排泄される量が多いと便秘になる）、それだけでは確実に骨粗鬆症は悪化します。その理由はカルシウムはとれば吸収されるほど簡単ではないからです。

骨粗鬆症を防ぎ治したいなら、摂取したカルシウムが吸収され、利用されるようにしなければなりません。そのためにはサブタイトルに書いたカルシウム・日光浴・運動は三位一体を胆に銘じ、日常の生活全般を見直すことから始めなければなりません。すなわち摂取したカルシウムを吸収するにはビタミンDが不可欠であり、利用するには運動が重要な役割を果たしているのです。

高齢者はビタミンDが欠乏する

高齢者が容易に治りにくい骨粗鬆症になる主要な病因は、カルシウムの不足ではなく、ビタミンDの生成能や吸収能の低下、あるいは運動不足にあります。

誰もが知ってるように、生あるものは必ず老化し、さまざまな機能が衰えます。ビタミンDについても、紫外線の作用で皮膚の7－デヒドロコレステロールから生成される生成能が低下します。加えてビタミンDの活性化に、肝臓で代謝されてから腎臓で代謝される必要があるため、加齢に伴う腎機能の低下もビタミンDの代謝に悪影響を及ぼします。それやこれやで高齢者はビタミンD欠乏状態を簡単に起こしますので、折角努力してカルシウムをとっても吸収されず便秘だけを残すのです。

高齢者のビタミンD代謝に関する報告

イスラエルのワイスマンらの高齢者のビタミンD代謝に関する研究結果を引用します。ワイスマンらは70－85才の高齢者82人（男36人、女46人）を、殆ど屋内で暮らす30人（平均77・9才）、時に屋外で過ごす活動的な31人（平均76・1才）、毎日数時間野良仕事をしている農業従事者21人（平均76・6才）の3群に分け、ビタミンD代謝について健康な若年者と比較しました。

その結果、高齢者のビタミンDの値は若年者と比較してすべて低値をとりますが、高齢者でも光線を浴びる機会の多い人ほど高値をとります。また腎機能のビタミンD活性化に及ぼす影響を調べると、活性化率は若年者より低値をとりますが、高齢者の各群の間には有意差は認めません。これはビタミンDの値は紫外線で生成されるビタミンDによって決まることを示しています。また20人の高齢者でビタミンDを経口的に与えて腸からの吸収能を調べていますが、10人50％に吸収障害を認めています。

高齢者の骨粗鬆症を防ぐ光線浴

ワイスマンらはこの研究から得られた所見を次のように述べています。

①ビタミンD値を高齢者群と若年者群と比べると、高齢者群で明らかに低値をとる。この値を検討すると、82例中15例（18％）でビタミンD欠乏があり、82例中28例（34％）は境界域にある。すなわち82例中43例（52％強）はビタミンD欠乏ないし欠乏に近い状態にある。

②高齢者のビタミンD吸収能は半数で低下していたが、検査前のビタミンD値と吸収能の間に関連はない。

③すなわち高齢者がビタミンD欠乏状態になり易いのは、紫外線に対する感受性が低下してビタミンDが出来にくくなるためで、これが骨粗鬆症の主要な原因になる。

④以上の事実から、イスラエルのような亜熱帯に住んでいても、特に70才過ぎの高齢者では、光線不足で容易にビタミンD欠乏症にかかることを知らなければならない。

ワイスマンらの研究は、年老いて丈夫な骨を保ち骨粗鬆症にならないようにするためには、十分に光線を浴び、適度な運動を忘れない、自然の摂理に従った平凡なことを実行することの重要性を明らかにしました。

屋根

宇都宮義真撮影

赤外線の熱の話

宇都宮　義真

赤外線の発見

西暦一六六六年にプリズムを使って日光を虹の七色に分けたのは、万有引力の発見で有名なニュートンです。しかし彼ほどの偉大な天才をもってしても、日光には目に見えない大切な光線、すなわち不可視光線があることには気付きませんでした。

不可視光線のうちの赤外線は、ニュートンが虹の原理を発見してから一三四年後になる一八〇〇年にハーシェルによって発見されました。赤外線は熱作用を持つ温かい光線ですが、彼が目に見える光線（可視光線）の各色の温度（色温度）を測っていた時に、偶然赤色の外側の何も見えないところで温度が上昇することに気付いたのが発見につながったと言われています（不可視光線のうち紫色の外側の紫外線には熱作用はなく、リッターが化学反応を利用して一八〇一年に発見しました）。

赤外線の熱は輻射熱

日光浴が温かくて気持ち良いのは主に赤外線の作用です。日光の約六〇％は赤外線ですが、その熱作用は熱が物体の高温部から低温部へ移動する伝導熱や液体や気体のような流体が移動する対流熱と異なり、日光から放射された赤外線（輻射線）が物体に吸収されて始めて熱に変わります。このような伝わり方をする熱を輻射熱と言いますが、日光が太陽と地球の間の真空地帯を通過し、厳冬期のどんな寒い日でも途中で冷えたりせず、地上に多量の熱を与えてくれるのです。これが日光に当たると温かく感じる主たる理由です。

赤外線の種類

私たちは八千―一万ミリミクロンの波長の赤外線を出している、といったら驚く人がいるかも知れません。実は赤外線は生物、無生物を問わず、絶対温度（絶対零度は摂氏マイナス二七三度）で零度以上の物から出ています。言い換えれば、絶対零度以下の物などはありませんから、すべての物が多かれ少なかれ赤外線を出しているのです。この現象を温度輻射と呼びますが、光源となる発熱体の温度によってそれぞれ放射する赤外線の波長が異なるため、波長の長短から次の三種に分類されます。（一ミリミクロンは百万分の一ミリです）。

近赤外線　八〇〇―一五〇〇ミリミクロン。

中間赤外線　一五〇〇―五〇〇〇ミリミクロン。

遠赤外線　五〇〇〇ミリミクロン―一ミリ。

赤外線は光源の温度が高くなるほど短い波長まで出るようになり量も多くなります。ちなみに私たちの体温程度の発熱体では遠赤外線領域の輻射線しか出ませんが、表面温度が六〇〇〇度に達する太陽や三〇〇〇度で燃焼するカーボンを使うサナモアからなら、医療的価値の高い近赤外線が豊富に出るのです。

赤外線の治療効果

紫外線の治療効果についての研究は相当進んでいますが、赤外線については熱作用を除くと殆ど分かっていません。そのため今後いろいろな面白い発見があるのではないかと期待しますが、とにかく最も深く体内に浸透し、そこで吸収されて熱に変わる温熱効果があることから、治療面での影響は大きいと思われます。体内の熱については、風邪のような病気で発熱するのも風邪のウィルスを撃退する自然治癒力を高めて病気を治すため、と考えられています。このように体内を温めることは病気の治療に有効ですが、伝導熱や対流熱ではいくら熱くても体内には入れません。

ところが赤外線には気持ち良い温かさを感じるだけで体内の深部を熱する作用があります。その結果、深部温を高めますから、毛細血管への温熱刺激で血管が拡張して血行が良くなり、局所の能動性充血を起こし、どんな痛みでも和らげます（多くの痛みの原因に患部の血液循環障害があります）。ところで火傷や捻挫のような急性の炎症性の病気で冷やすのも、実は冷たいと感じる刺激が深部の血管を拡張して血行を促し、皮膚の表在性血管を収縮させて熱の放散を防ぎ、却って内部を温めるからです。冷水浴の後で身体が温まるのと同じです。また体内を加温することは、血液中の毒素を中和し、白血球の食菌作用を旺盛にし、新陳代謝を盛んにします。

なお赤外線は紫外線や可視線の働きを高めますので、サナモアのように赤外線だけでなく紫外線や可視線を混合して放射する治療器は、光線の一部を放射する治療器より優っています。

「健康と光線」
昭和26年2月25日発行
―赤外線と熱の話―
を引用した。

今なお残る震災の爪痕

―医療・福祉に山積する課題―

神戸市　ウエノ光線療研　上野　健太郎

震災を無事に乗り越えた上野さん一家
（平成8年3月撮影）

震災後、何ヵ月も無残な姿をさらしていた神戸の街も、一年二ヵ月経った現在は、その様相も変わってきた。街のホコリっぽさもかなり治まり、行き交う人々のマスク姿も殆ど見掛けなくなった。メイン道路のデコボコ歩道の修復工事や舗装工事も二月の終わり頃から始まっている。しかし一歩裏通りに入ると、倒壊した建物を取り壊した跡地の更地が点在し、傾いた建物が目につく。ウエノ光線療研も傾いた建物の中の一つだが、やむを得ずそのまま営業している。あちこちで修復工事や新築工事の騒音や振動が周りに響いている。

震災以降今日まで、光線療法の相談からカーボンの購入まで、いろいろな目的でウエノ光線療研を訪れた被災者の人達も、自分が体験した被災の実状をこと細かによく話す人から、震災の話になると途端に口数が少なくなり、終いに黙してしまう人までさまざまである。そこには深い心の傷痕が見て取れる。

隣で寝ていた奥さんが、激震の瞬間、落下してきた梁（はり）で圧死し、自分は軽傷ですんだ七五才の男性は、次に大きい地震が来たら一震即死を願うだけ、と乾いた声で言いながら、しかし生きている間は元気で生きていたい、とカーボンを求めていった。

四月の中頃になって仮設住宅に入居することができたが、それまでの無理がたたって足が痛くなり、狭い室内を壁や物を伝わって歩くようになってしまった六五才の女性は、この十年来、身体に具合の悪いところがあると出して愛用していた治療器の照射器が潰れてしまった。そのために大阪に住む長女が自分が使っていた治療器を持って来てくれた。それからは今出来る治療はこれしきゃない、と朝、昼、晩と照射し続けた。カーボンは殆ど幾つかに折れてしまったのを掻き集めて持ち出したので、半分以上はABCDの区別がつかなかったが、手当り次第に使った。一週間、二週間と経つうちに、次第に足の調子も良くなってきた。三週間が過ぎた頃、用心のために杖を使いながら歩いて七分のバスの停留所まで行けるようになったので、三宮までショッピングに出掛けた。半年振りに来所された際に、光線で膝のまわりがすっかり黒くなってしまって、と笑っていた。

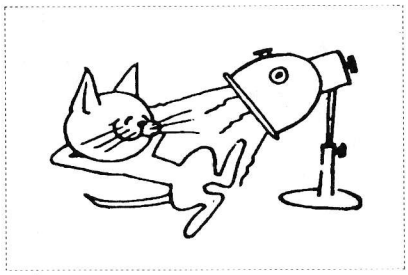
初めの避難先が学校の体育館だった六七才の独り者の男性は、積もる疲労と睡眠不足で食欲がなくなり、何をするのも面倒になって、一日中床板の上に敷いた毛布に横たわっていることが多かった。食事を運んでくれるボランティアの人達にはすまないと思っても、食事が喉を通らない。夜中に目覚めると、ここは何処かと怯えた。仕切り一つ向こうの四、五人の家族の中から、どうして俺はこんなところに居るんだ、と叫んでいる声が聞こえた翌朝、嫁さんらしい女性が、ご迷惑をかけて、と詫びに来た。震災の前の年、八〇才になった頃から軽い痴呆の症状が出始めたのだそうだ。激しい下痢の始まった日、三度目の見舞いに来てくれた明石に住む甥の家に世話になる決心をしたが、そこで始めて光線治療器なるものを見た。かけてもらうと気持ちがいい。朝と晩に足や腹や腰にかけてくれる。よく眠れるようになり、食欲が出てきた。二ヵ月して運良く甥の家から車で三十分のところの仮設住宅に入居出来た。甥が譲ってくれた治療器で一日に二回あてているが、次第に元気が出てきた。いつも頭にこびりついていた不安も少しずつ薄らいできて、まだ先のある身だから、もう一度頑張ろう、という気力も出てきた。甥の家族も喜んでくれている。

三十年前に購入した小型の治療器の本体は何とか使えるが、集光器が潰れてしまった。現在の集光器ではサイズが合わないが、何とかならないか、と相談された。三十センチ四方に切ったアルミホイルの中央に直径十センチ余りの穴を開け、集光器の代用として使うように勧めた。窮すれば通ず、ということか。

神戸の街を瞬時にして壊滅状態に陥れた未曾有の災害に遭遇した人々は、なにもかも不自由な暮らしの中で歯を食いしばって生きてきた。そして今、神戸の街は復興の途上にあるが、人々は物的、心的な援助を必要としている。とりわけ災害は社会的弱者を直撃しがちなため、これらの人々の医療、福祉には課題が山積している。

筆者は、ウエノ光線療研が神戸の人々によって育てられた経緯からも、光線療法を通して神戸の人々の医療、福祉に貢献する一翼を担えれば、と願っている。

（神戸市中央区山手通3－5－1　TEL 078－332－1358）



治験例報告

☆痔疾

症例　43歳　男性　会社員

症状　学生時代から便秘がちで痔の気があった。長期出張の際など、一週間以上便通のないことすらあった。酒好きで食事は好き嫌いが多い。

数年前、肌寒い日にナイターを観に行ったが、翌日から排便時に痔から出血するようになった。とりあえず市販の座薬を使ったが、そのうち出血しなくなったので、そのまま放っておいた。二年前から、排便の後にパンパンに腫れた痔が肛門から脱出して激しく痛み（痔核発作）、脱出しても自然に戻っていた痔が指で押し込まないと戻らなくなった。そのため姉の紹介で来所した。

身長　172cm、体重　70kg。

療法経過　ABカーボンで足裏20分、肛門部（必ず集光器を使って）30分、BDカーボンで下腹部20分、腰10分、次にABカーボンで膝10分、背10分、後頭部（集光器を使って）10分、それぞれ照射した。

二日間、続けて照射したところ痛みが和らいだ。日をおいて三回目の治療をしたが、腫れて脱出していた痔が少ししぼんで軟らかくなり、痛みを感じなくなった。その日以後、姉から借りた治療器で自宅で自己治療としたが、肛門への照射はAとBとDの組み合わせを替えながら行うように指示した。

二週間過ぎて連絡があり、肛門に照射すると気持ち良く、肛門から腫れて脱出していた痔が押し込まなくても自然に戻るようになり、痛むこともなく、肛門にしまりが出てきたようだ、と言っていた。一ケ月半後にカーボンを求めに来所したが、以前は排便時の苦痛を思うとトイレに行くのをこらえることもあったが、この頃は排便の調子も良く、気張る回数も減り、いつも肛門で感じていた不快感もなく、妻はパンツが汚れなくなったと喜んでいる、と話していた。

なおこれからは本格的に便秘癖を治すため、光線療法に併せて努めて運動するようにしたいので、痔のため暫く休んでいたゴルフを始めた、とのことである。

神戸市　ウエノ光線療研
上野　健太郎氏報告
TEL〇七八－三三二－一三五八

☆胃アトニー症（胃筋無力症）

症例　55歳　女性

症状　平成6年6月1日初診。生来の胃弱で非常に痩せており太れない。三年程前から食欲が極度になくなり、腹部に痛みや重くはりついた不快感があり、吐き気に苦しめられるようになったため、胃の検査を受け胃アトニー症と診断された。また左肩から左手に神経痛様の痛みやシビレを訴え、更年期も関わってか、手足や全身の冷え、不眠、倦怠感、疲労感、頭重感、頭痛、めまい、動悸など多彩な全身症状を認めた。

治療経過　カーボンはAB、AA、AD、BB、BDなどの組み合わせを症状に応じて適宜選択し、同時に三台から四台の治療器を用いた。なお腹部の痛みを訴えている部位には一号集光器を用い、それ以外の部位はすべて全開で照射した。

まず側臥位で、足裏と腹部と後頭部に15分、肛門と腰と顔と膝に10分、計25分照射してから、仰臥位で、右から肩、左から顔、左から腹、右から膝に5分、次に反対方向から同様に5分、計10分、総計35分照射した。

治療を始めて一週間程で、やや顔色が良くなり、めまいが軽くなった。二ケ月弱で、腹部の不快感が薄らぎ、吐き気も治まった。二ケ月半過ぎた頃から、食欲が出て、だるさも取れた。また三ケ月後に、左肩から左手の痛みがなくなった。六ケ月経って、手足の冷えが温かくなり、夜もよく眠れるようになった。九ケ月過ぎた頃には、体重も増え、倦怠感もなく、趣味の社交ダンスやカラオケを楽しめるまで回復した。

通院一年半でさしもの症状も改善し全身状態も良好に保たれていることを確かめ、以後は自宅で治療を続けることにした。

なお本年の2月に経過観察のため来院してもらったが、非常に元気で、もう少し太りたい、と嬉しそうに話していた。

川崎市　東京光線治療院
海渡　一二三氏報告
TEL〇四四－七二二－五〇六七

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、サナモアABCDと効果が同じという根も葉もないうたい文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので呉々もご注意下さい。

（サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標－Bーのマークが必ずついてます。）

東京光線療法研究所

変形性股関節症の治験例について

岩国市　井川カイロプラクティック光線療法研究所
井川豊信

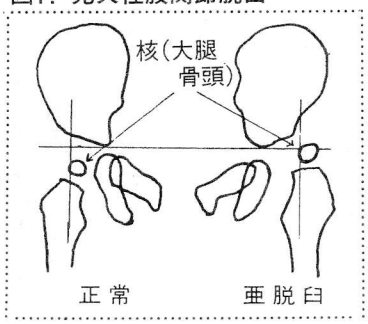
本紙二四二号（昭和64年1月1日発行）にサナモアによる股関節障害の治療について記述したが、今回は極めて治りにくい変形性股関節症の治療にサナモアが威力を発揮し著効を認めたので詳細について報告する。

変形性股関節症の発症について

変形性股関節症（以下、変股症と略）の発症機序には先天性と後天性があるが、大方の原因は図1に示したように将来大腿骨の骨頭となる核の位置が生まれつきずれていて、その後の発育に異常を来すためとされている。したがって生後五ケ月検診の際のような早期に股関節の異常を発見し治療することで、本症をある程度は予防することも可能とされるが、今回報告する症例のように発症まで気付かずに経過する例だけでなく、乳児期に先天性股関節脱臼と診断され治療を受けながら後に本症に罹病する例も少なくない。なお先天性股関節脱臼が女児に約五対一の割合で多いこともあって、変股症に罹病するのは殆ど女性である。

ところで本症を発症する年齢はさまざまで、早いと小学校や中学校や高等学校等に在学中に診断される例もある。運動会の「大行進」の際の歩き方がおかしいと当研究所に来所した女児三例、男児一例は本症であった。このように股関節の症状を訴えて来院する小学生や中学生の本症はまず先天性である。しかし多くの例で三十歳代以降に発症する。例えば、今回の報告例のように、結婚して出産し子育ての真っ最中に突如として股関節に痛みが出て、それから苦しみ続けると言うようなケースである。このような場合、股関節に痛みを自覚した時点から罹病した、つまり後天性と信じている場合が多いが、視診や問診や触察をしながら乳幼児期の状況までさかのぼって聞くと、「そう言われてみれば……」、と言った答えが返ってくる。

図1．先天性股関節脱臼



変形性股関節症の症状

変股症は股関節の屋根のひさしにあたる臼蓋と呼ばれる部分の形成が不十分なため、患側下肢の大腿骨の骨頭が外側斜め上方にずれて亜脱臼を起こし、下肢の長さが短縮して体重を左右均等に負荷することができなくなり、関節の軟骨はすり減って消失し、関節は破壊の過程を辿ることになる。

本症は通常断続的な股関節痛で始まるが、放置すれば常時激しく痛み、びっこをひきながら（跛行）腕を振って歩き、股関節の屈曲や伸展ができなくなり（可動域の制限）、脊柱の湾曲異常とそれに付随する二次的な症状を起こすなど、堪え難い症状を認めるようになる。また患側の大中臀筋や大腿の筋肉が落ち込み、左右臀部や大腿の太さの違いと筋力の低下を認める。そのため日常生活のＱＯＬ（生活の質）は時に悲惨なものになる。

変形性股関節症の治療

当研究所の変股症の治療方針は、

(1)骨盤の傾きを矯正して骨盤を水平に近づける。（オステオパシーとカイロプラクティックにより矯正。）

(2)関係する主要な筋肉や靱帯の強化、回復を図る。

(3)関節軟骨のより以上の摩耗を防ぎ回復を図る。

これらの方針は、股関節の痛みを緩和し体重の負荷を均等化することが目標になる。言い換えれば、患側股関節の負荷を免荷することにある。この目標を実現するため、サナモアを次の通り照射する。

カーボンはＢとＤを組み合わせ、患部の股関節には痛みが出る度に一日に何回となく照射し、筋肉や靱帯の緊張を緩める。また大・中臀筋には開放で照射するが、落ちた筋肉の状態を速やかに回復させるためである。次に大切なことは、膝関節および足関節への照射である。膝関節には裏側から、足関節には前側から照射した。この治療によって、体重の負荷の不均等による疲労と軟骨の損傷の回復を促し、下肢への血液循環が盛んになり新鮮な血液が股関節領域にも流れ込むので、患部への照射と同様な効果を期待できる、と考えたためである。

著者は、このような場合を含め何時もそうだが、サナモアを機械的にかけるだけでは駄目で、治すという気持ちとたゆまぬ努力が求められると、常に患者に話し、同意を得た上で治療することを心掛けている。

症例ならびに経過

症例は39歳の主婦。中学時代には走り幅飛びの選手。平成5年10月に出産。同年の12月から股関節痛を自覚するようになり、変股症と診断され治療を受けた。しかし症状は改善せず、一年たらずで急速に悪化したため手術も考慮されていた。

平成7年2月27日初診。図2は治療開始日に撮ったレントゲン写真のシェーマ解析図である。一見して股関節は破壊されており、疼痛と跛行は当然推察された。実際、痛みで顔はひきつり、

〈六ページに続く〉

〈五ページより続く〉

杖にもたれて何回も休みながら、当研究所まで来所された話を聞いて、治療する立場では、使命感に燃えて取り組む責任を感じた。治療法は前述したが、目標としてはとにかく〝疼痛の除去と筋力の回復〟を目指した。

治療を始めて治療家冥利に尽きると思ったのは、一ケ月程経過した時点で股関節の激痛が和らぎ、臀部の筋肉の落ち込みが八分通り回復し、三ケ月後には痛みがとれ、笑顔が戻ったことである。患者は〝お陰様で家庭内の暗い雰囲気も解消しました〟、と嬉し涙を流す場面もあった。

治療開始後一年程経過し、今は隔週毎に来院しているが、左右の臀部の高さも丸みも全く同じになり、スカートをはいても分からなくなった。体重も2キロ程増し、少し跛行を認めるが、自力で坂道を登ることも出来るようになった。このように良好な状態を保つのは、股関節の患部の所見が改善した何よりの証拠と考え、確かめるためレントゲン検査を受けるように指示した。

そのレントゲン写真をシェーマにして示したのが図3である。骨盤の傾きが改善したのは予測した通りであるが、驚いたのは最も気にしていた股関節の関節裂隙の間隔を明確に認めたことである。関節の裂隙が均等化した結果、骨盤が安定化し、体重を均等に配分し負荷する上で大きな効果をもたらし、痛みから解放されたことを確信したので、〝レントゲンでも股関節の状態は良くなってます〟、と患者に告げ一緒に喜ぶことができた。

図2. 治療前のX線のシェーマ解析

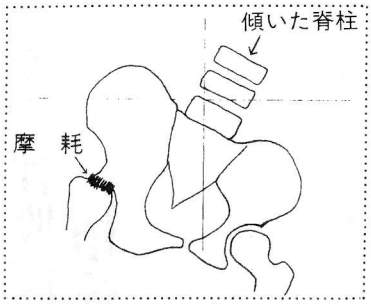
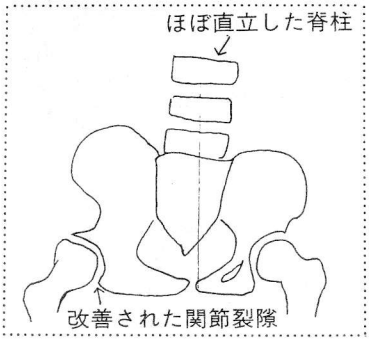


図3. 治療後のX線のシェーマ解析



レントゲン撮影を依頼した医師も大層驚かれたが、著者も写真を見てサナモアの偉効について今更のように信頼と自信を持つに至った。なお今回の症例以外にも、変股症の女性重症患者11例中8例で明らかな効果を認めているが、その治療効果の根拠についても同じことが言える、と考えられ、サナモアの偉効は確かである。

まとめ

著者はこれまでの変股症の治療経験から、難治な変股症を予防し治療する要諦は、

(1)出来るだけ早期に発見し早期に治療を開始する。

(2)治療には、これまでに述べたことを参考にして、サナモアの使用を勧める。

(3)好転の兆しが見えるまでが勝負の岐れ目と思い治療を止めない。これで失敗する人が多い。

(4)手術については年を経て最後の手段と考え急がない。

謝辞　この臨床研究のレントゲン撮影に際しては、最所陽太郎医師のご協力をいただきました。ここに付記して感謝の意を表します。

（山口県岩国市保津町一丁目
TEL 0827-38-0151）

サナモア
Sanamoa

サナモア光線協会
趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限りない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従って、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙、普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。

サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同載いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会
医学博士　宇都宮　光明

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。
〒153　東京都目黒区目黒4－6－18
サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三－五二八一
三七一二－五三二二

（本紙の無断転用を禁止します。）